

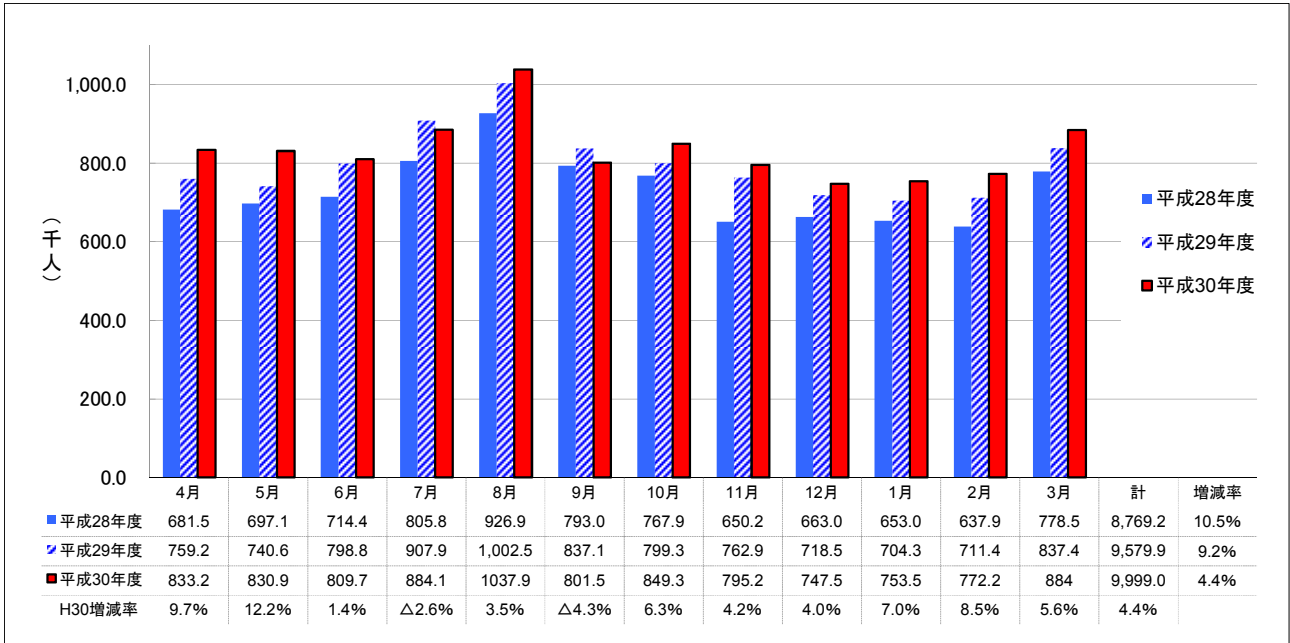
平成 30 年度 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
平成 31 年 4 月発表

平成 30 年度の観光客数は、999 万 9,000 人で過去最高

対前年度 (H29) 比 +41 万 9,100 人、+4.4%

■月別入域観光客数の推移 (平成 28 年度～平成 30 年度)



■平成 30 年度の概況 (総括)

平成 30 年度の入域観光客数は 999 万 9,000 人で、前年度比で 41 万 9,100 人、率にして 4.4% の増加となった。度重なる自然災害や麻しん発生の影響により、年度目標の 1,000 万人には、届かなかったものの、前年度に引き続き、900 万人台を記録し、6 年連続で過去最高を更新した。

前年度と比べて増加した要因は次の通りと考えられる。

- 行政や民間が一体となったプロモーション活動により、沖縄の認知度向上や旅行意欲の喚起を図ったこと
- 離島直行便など国内航空路線の拡充による国内客の増加
- 海外航空路線の拡充・クルーズ船寄港回数の増による外国客の増加

■平成 31 年度の見通し

景気は緩やかな回復基調にあることや、下地島空港旅客ターミナル施設の供用開始により、成田-下地島 (宮古) に引き続き、関西-下地島 (宮古) の新規就航が予定されているほか、那覇空港国内線・国際線ターミナルの連結に伴う LCC 施設の移転によりさらなる利便性向上がなされること等により、国内旅行市場は好調に推移するとみられる。

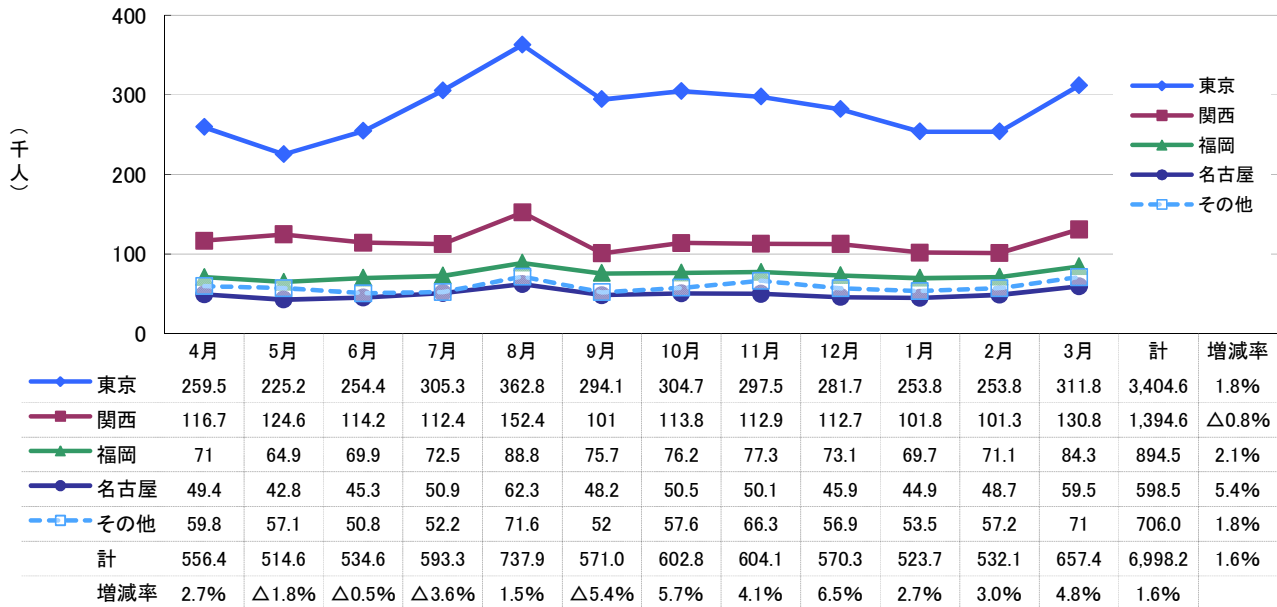
また、外国客については、香港-下地島 (宮古) の新規就航予定や、香港-那覇間において LCC による運航再開予定があり、空路客の入込増加が期待されるほか、クルーズ船の寄港についても増加する予定となっていること等から、好調に推移するものと見込まれる。

国内観光客の動向

■入域観光客数（国内）

平成30年度の国内客は、対前年度比で11万300人、率にして1.6%の増の699万8,200人となり、6年連続で過去最高を更新した。これまでの年度における国内客の過去最高の入込は、平成29年度の688万7,900人。

■平成30年度国内観光客の状況（方面別の月別推移）



■国内観光客の概況

平成30年度は度重なる自然災害や麻しん発生の影響があったものの、景気回復基調が継続したことで全体として国内旅行需要は好調に推移した。おきなわ技能五輪・アビリンピックの開催があったことや、成田－石垣路線の新規就航等の航空路線の拡充があったこと等から、前年度を上回った。

【方面別の動向】

東京方面 成田－石垣路線の新規就航に加えて、羽田－那覇路線の増便等の航空路線の拡充があったこと等から、前年度を上回った。

関西方面 関西国際空港の一時閉鎖など台風の影響による航空路線の欠航があったこと等から、前年度を下回った。

福岡方面 福岡から宮古・石垣への直行便および北九州－那覇路線の増便等の航空路線の拡充があったこと等から、前年度を上回った。

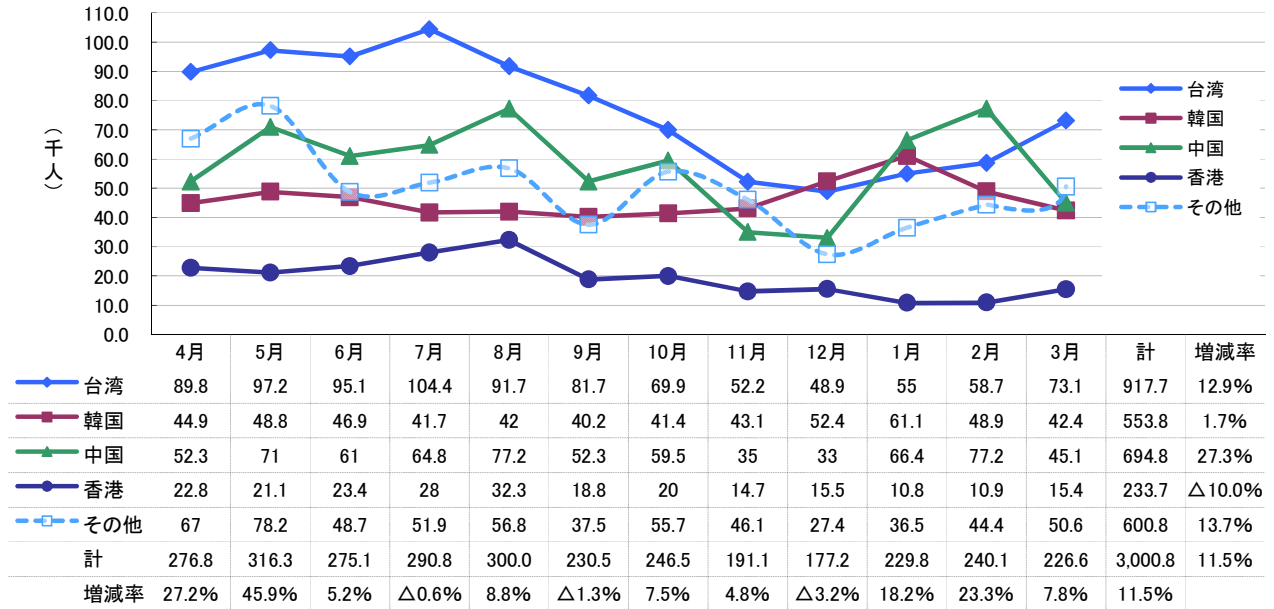
名古屋方面 名古屋から宮古への直行便および名古屋－那覇路線の増便等の航空路線の拡充があったこと等から、前年度を上回った。

外国人観光客の動向

■入域観光客数（外国）

平成 30 年度の外国客は、対前年度比で 30 万 8,800 人、率にして 11.5%の増の 300 万 800 人となり、11 年連続で過去最高を更新し、初の 300 万人台となった。これまでの年度における外国客の過去最高の入込は、平成 29 年度の 269 万 2,000 人。

■平成 30 年度外国人観光客の状況（方面別の月別推移）



■外国人観光客の概況

平成 30 年度は、麻しん発生や台風の影響があったものの、昨年度から引き続き、訪日旅行人気が続いていることに加え、沖縄発着航空路線の新規就航および既存路線の増便があり、空路客が増加した。

また、クルーズ船寄港回数が増加したことにより、海路客が増加した。

【市場別の動向】

台湾

ピーチアビエーションによる高雄－那覇路線の新規就航などの航空路線の拡充に加え、クルーズ船の寄港回数も昨年並みを推移したこと等により、空路・海路客ともに増加し、過去最高であった昨年度を上回り、初の 90 万人台となった。

韓国

エアソウルによる仁川－那覇路線の新規就航を含む航空路線の拡充により、空路客を中心に増加、過去最高であった昨年度を上回り、引き続き 50 万人台となった。

中国本土

航空路線は昨年並みを推移したものの、中国発クルーズ船の寄港回数増により、空路・海路客ともに増加、初の 60 万人台となった。

香港

麻しん発生や台風の影響により、空路・海路客ともに減少し、過去最高であった昨年度を下回り、過去 2 番目の観光客数となった。

その他

ピーチアビエーションによるバンコク－那覇路線や、ジェットスター・アジア航空によるシンガポール－那覇路線など東南アジア方面での提供座席数の増加があった。